

# 「強い円」はどうして失われたのか

みずほ銀行チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔から  
かま  
だい  
すけ

- \*財務省も国際収支に注目
- \*円安には日本固有の原因
- \*インフレコースに入った日本経済
- \*異次元緩和で円安？
- \*貿易赤字国となった日本と米利下げ
- \*「経常赤字」が円安の真因
- \*旅行収支黒字に供給制限
- \*心配なデジタルサービス赤字拡大
- \*大規模化する「家計の円売り」
- \*実は「債権取り崩し国」？



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日はひどい雨や風の中をお越しいただきました  
ありがとうございます。毎朝金曜日、天候が  
悪いと不安にかられるのですが、非常に面白い  
テーマなので皆さんお越しいただけると期待し  
ておりました。

今日は唐鎌大輔先生にお越しいただきました。  
みずほ銀行のチーフマーケット・エコノミスト  
をされています。先生はうちから2冊、過去に  
本を出していただいて、この『欧州リスク』と  
いう本と、それからこれはかなり本格的な厚い  
本ですけれども、『ECB欧州中央銀行』とい  
う本も書いていただいております。それから、  
皆さんもご存じだと思いますけれども、『東洋経  
済オンライン』のほうにも毎週のように健筆を

振るっていただいています、本のほうはご専  
門の一つであるヨーロッパのことについて書い  
ていただいておりますけれども、最近『東洋経  
済オンライン』で書いていただいているのは円  
や、ドルの問題、為替の問題であります。

今回お配りしたレジュメを見てもわかるよう  
に、為替の問題を論じるといふことは、結局日  
本経済の置かれている状況、行く末を論じるこ  
とと等しいと思いますけれども、為替について  
は一時期、円安から円高に振れたときに、ほと  
んどの専門家が140円割れて135円ぐらい  
まで行くだろうと予測をしている中、唐鎌先生  
は逆に、いや、そんなことはないだろうと。円  
安方向を説いていらっちゃって、そのときは非  
常に少数派でした。ただ、現在見ればわかるよ